

望ましいインフレ率はなぜゼロを上回るのか？

- 技術進歩と賃金効用を含むニューケインジアン DGE モデルによる分析 -

早稲田大学 井上智洋 都築栄司

本稿では、標準的な New Keynesian モデルに技術進歩と資本ストックを導入する。最初に名目賃金率の変更にコストが掛かるものと仮定する。このようなモデルを用いた分析により、貨幣成長率が技術進歩率に等しい時、定常状態における自然産出水準とゼロインフレが実現することが示される。また、物価上昇率がおよそゼロの時に効率産出水準が実現する。

次に、名目賃金率を変更する際に家計に不効用が発生するようなモデルに改める。このモデルの場合、物価上昇率がゼロを上回る時に効率産出水準が実現する。

さらに、平均名目賃金率を参照点とし、そのような参照点と自分自身の名目賃金率との相対的な関係が家計の効用に影響するようなモデルに改める。この場合、自然産出水準や効率産出水準を実現するためには、より高い物価上昇率を目指さなくてはならなくなる。